

成績概要書（2010 年 1 月作成）

研究課題：スプレーカーネーションの二年切り栽培技術
(113281)

担当部署：花野菜 研究部 花き科、道南農試 研究部 作物科

協力分担：なし

予算区分：道費(一般)

研究期間：2006～2008 年度（平成 18～20 年度）

1. 目的

道内のスプレーカーネーション二年切り栽培技術に関して、春植え及び秋植え作型での切り花品質、収量及び作業性を明らかにし、各作型に適した仕立て法を提示する。

2. 方法

- 1) 供試品種：「バーバラ」(草勢強、花色セリースピンク)、「チェリーテッシノ」(草勢弱、花色セリースピンク/白)
- 2) 栽植様式・試験規模: 条間 10cm、株間 20cm、6 条植え、18750 株/10a、1 区 30 株 2 反復
- 3) 春植え作型(花野菜：滝川市) (1)ねらい：採花 1、2 年目を組み合わせた高品質で長期出荷可能な栽培法の開発(2)採花 1 年目の耕種概要①定植時期：2006 年及び 2007 年 4 月下旬、②仕立て法及び栽培管理法(慣行)：4 本仕立てとし 8 月以降採花、11 月に未採花枝を地際で整理し微加温(2℃)越冬、(3) 試験処理区(採花 2 年目の仕立て法)：切り戻し位置(無、5cm、20cm)、1 回半摘心(有、無)の組み合わせによる 5 処理
- 4) 秋植え作型(道南農試：北斗市) (1)ねらい：採花 1 年目と同程度以上の収量・品質で省力的な採花 2 年目栽培法の開発(2) 採花 1 年目の耕種概要①定植時期：2006 年及び 2007 年 11 月上旬、②仕立て法及び栽培管理法(慣行)：1 回半摘心栽培により 6 月より 1 番花 2 本、1.5 番花 4 本、2 番花 2 本採花、11 月に未採花枝を地際で整理し二重被覆加温 (5℃越冬)、(3) 試験処理区(採花 2 年目の仕立て法)：切り戻し時期(1 月、2 月)、切り戻し位置(10cm、20cm、30cm)、1 番花整理法(芽整理、枝整理)の組み合わせによる 8 処理

3. 成果の概要

春植え作型

- 1) 採花 2 年目春の切り戻し位置については、20cm 及び 5cm より切り戻し無で規格内収量が多かった(図 1)。
- 2) 採花 2 年目に 1 回半摘心を行うことにより、採花のピークを分散化することができ、採花 1 年目よりも早い 7 月から 8 月に採花することができた(図 2)。
- 3) 採花 2 年目春に切り戻しを行わず 1 番花を芽整理し、1 回半摘心栽培を実施することで、規格内収量が多く、長期出荷が可能であった(図 1、2)。

秋植え作型

- 4) 採花 2 年目の切り戻し時期について、2 月は 1 月より規格内収量が減少した(図 3)。切り戻し位置について、10cm 及び 30cm より 20cm で規格内収量が増加傾向を示した(図 4)。
- 5) 1 番花整理について、枝整理では芽整理より規格内収量が多く、仕立て作業時間は短かった(図 5)。
- 6) 採花 2 年目 1 月に 20cm で切り戻しを行い、前年枝を整理することで規格内収量が多く(図 3、4、5)、仕立て作業時間も短かった。この仕立て法により、採花 1 年目より切り花長及び有効花蕾数はやや減少するが、上位規格(2L+L)及び規格内収量は増加した(図 3)。
- 7) 以上より春植え及び秋植え作型における二年切り栽培について、草勢の異なる品種にも適用でき、収量性の優れた採花 2 年目の仕立て法を図 6 に示した。

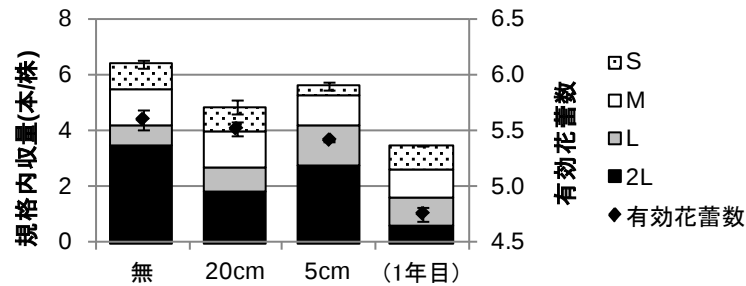


図 1 春植え採花 2 年目の切り戻し位置が収量及び有効花蕾数に及ぼす影響(バーバラ、2006 年定植)

注 1)バーは規格内(2L+L+M+S)収量及び有効花蕾数の標準誤差を示す

注 2)採花 2 年目は 1 回半摘心を実施

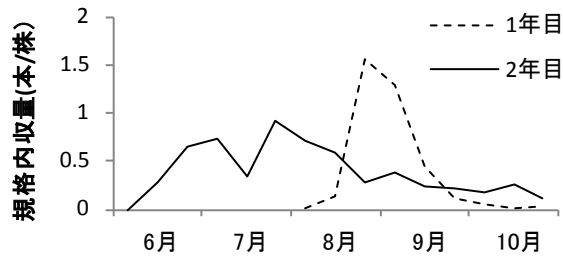


図 2 春植え採花 1～2 年目の時期別・規格内収量(バーバラ、2007 年定植)

注) 採花 2 年目は切り戻し無、1 回半摘心を実施

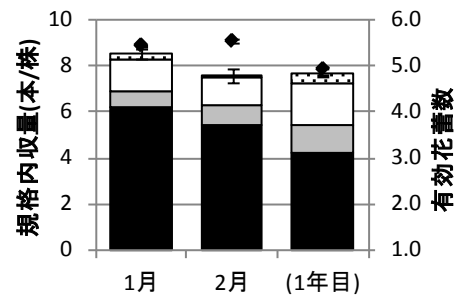


図 3 秋植え採花 2 年目の切り戻し時期が収量及び有効花蕾数に及ぼす影響(バーバラ、2006 年定植)

注)バー及び凡例は図 1 注釈参照

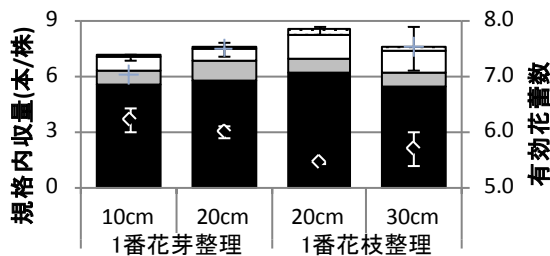


図 4 秋植え採花 2 年目の切り戻し位置が収量及び有効花蕾数に及ぼす影響(バーバラ、2006 年定植)

注)バー及び凡例は図 1 注釈参照

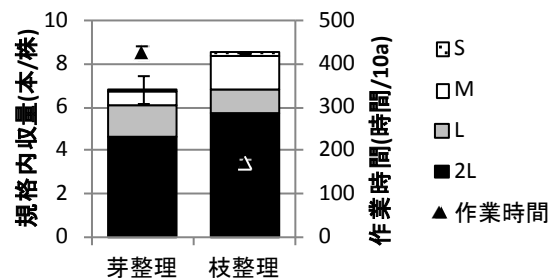
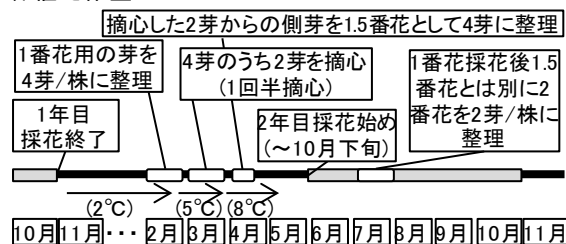


図 5 秋植え採花 2 年目の 1 番花整理法が収量及び作業時間に及ぼす影響(バーバラ、2006 年、2007 年定植平均)

注)バーは規格内(2L+L+M+S)収量及び作業時間の標準誤差を示す

春植え作型



秋植え作型

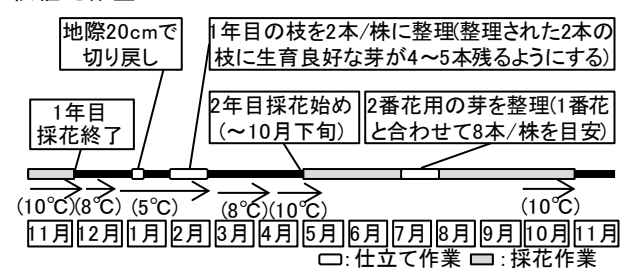


図 6 二年切り栽培採花 2 年目における仕立て法

注)矢印及びその下の括弧内は試験実施時における加温時期及びハウス内最低温度を示す

4. 成果の活用面と留意点

- 1) スプレーカーネーション二年切り栽培導入時の資料とする。
- 2) 本試験は春植え作型を滝川市で、秋植え作型を北斗市で実施した。

5. 残された問題とその対応

- 1) 春植え作型採花 2 年目の秋季加温による生産性向上